

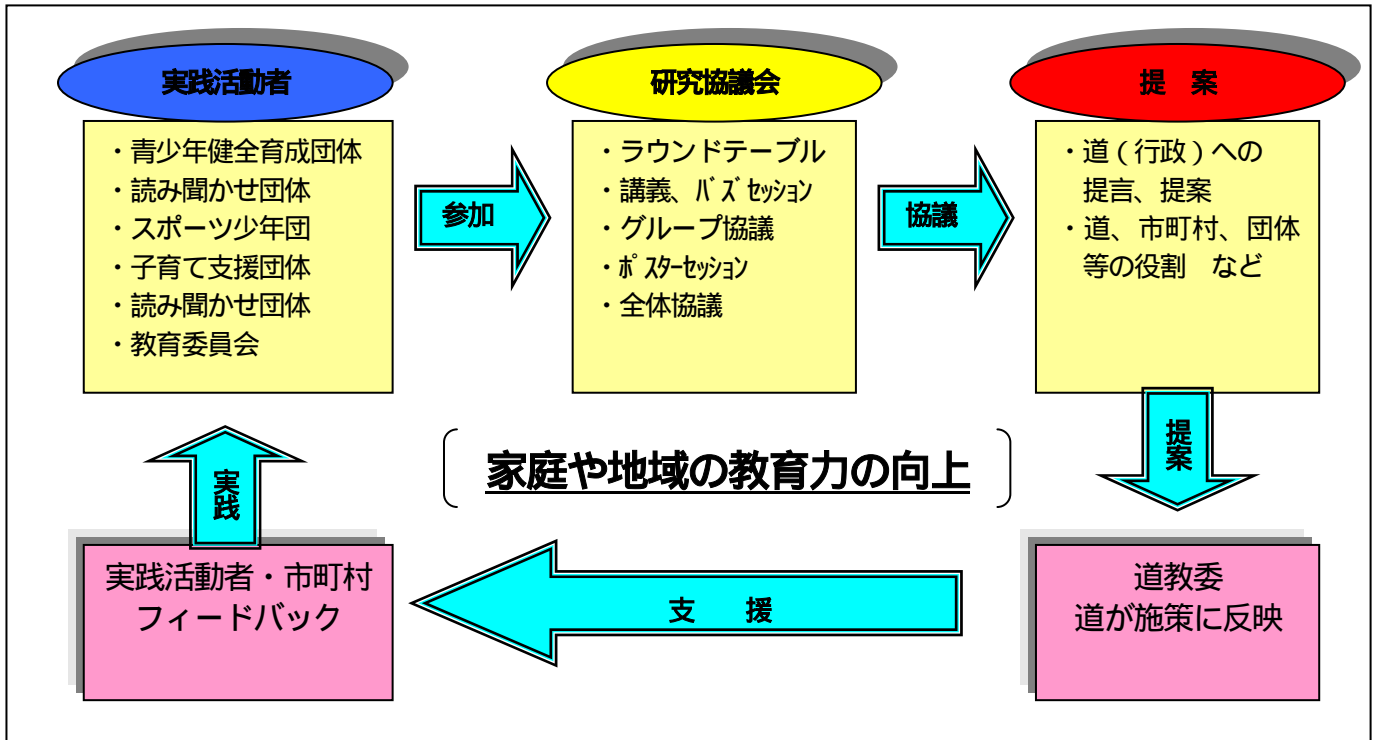
1 日程

期 日	場 所	内 容(講師名)
9月1日(木)	道民活動振興センタービル	(1) 説明「研究協議会の持ち方について」 説明者 北海道教育庁生涯学習部生涯学習課主査 井上規之 (2) ラウンドテーブル「最近の子育てや地域の教育事情について」 コーディネーター 道立生涯学習推進センター学習情報課課長 櫻庭望 氏 スピーカー 臨床心理士 市川啓子 氏 ファミリーライフエドゥケーター 林 真未 氏 札幌市立宮の森小学校 PTA 会長 小賀 聡 氏 (3) 行政説明「北海道子どもの未来づくりのための少子化対策推進条例について」 説明者 北海道保健福祉部子ども未来づくり推進室主査 永沼郭紀 氏 (4) グループ協議 テーマ「家庭の教育力向上のための方策について」 ファシリテーター 石狩教育局社会教育主事 佐々木一友 氏 空知教育局社会教育主事 水間一仁 氏 後志教育局社会教育主事 渡邊琢真 氏
10月12日(水)	道民活動振興センタービル	(1) 講義・バズセッション 「新しい家庭教育の学習方法～ITを使った遠隔学習～」 講師 道立生涯学習推進センター学習情報課主査 柴田曆章 氏 (2) グループ協議 テーマ「地域の教育力向上のための方策について」 ファシリテーター 石狩教育局社会教育主事 佐々木一友 氏 空知教育局社会教育主事 水間一仁 氏 後志教育局社会教育主事 渡邊琢真 氏
11月16日(水)	道民活動振興センタービル	(1) グループ協議 テーマ「家庭・地域教育力向上のための方策について」 ファシリテーター 石狩教育局社会教育主事 佐々木一友 氏 空知教育局社会教育主事 水間一仁 氏 後志教育局社会教育主事 渡邊琢真 氏 (2) 全体協議(まとめ) ポスターセッション コーディネーター 北海道教育庁生涯学習部生涯学習課主査 井上規之

2 協議会メンバー

氏 名	市町村名	分 野	氏 名	市町村名	分 野
畑 かおる	恵庭市	コミュニティースクール	岩田隆治郎	小樽市	青少年健全育成
坂井 翔一	当別町	NPO	澤井 恵利	仁木町	スポーツ少年団
駒場 義剛	厚田村	子育てネットワーク	伊賀 晴紀	古平町	教育委員会
松山 和子	江別市	読み聞かせ	今田奈々子	黒松内町	教育委員会
佐々木拓人	千歳市	教育委員会	本田 亨	小樽市	教育委員会
川村 聖美	江別市	教育委員会	渡邊 志伸	深川市	青少年健全育成
小出 真二	当別町	教育委員会	山岡 桂司	芦別市	青少年健全育成
東 信也	石狩市	教育委員会	出村 鴻子	栗山町	読み聞かせ
藤野真一郎	恵庭市	教育委員会	紺野 隆子	秩父別町	青少年健全育成
藤岡久美子	恵庭市	教育委員会	運上 琢諭	滝川市	教育委員会
吉倉 薫	恵庭市	教育委員会	高崎 一弘	砂川市	教育委員会
峯山実千香	小樽市	子育て支援	谷川 松芳	長沼町	教育委員会
小幡貴美子	倶知安町	読み聞かせ	赤井 圭二	沼田町	教育委員会

3 協議会コンセプト



協議会の様子



グループ協議の概要 「Aグループ」

第1回目 「家庭の教育力を向上させるために」 9月1日(木)実施

<p>家庭教育にある課題等を考えると…</p> <p><u>心と身体のバランス</u> <u>協調性は良いが、中には打ち解けられずにいる者</u> <u>しかられ慣れていない子ども しかってキレる子</u> <u>わが子だけしか育てていない</u> <u>家族社会が変わってきている</u> <u>子どもの想像力が不足</u> <u>昔のものが今の時代に合わず、消えている</u> <u>今の大人が自信の持てない社会</u> <u>親の働く姿を子どもが見ていない(見えない)</u> <u>個々の問題</u> <u>集団の中では良い子でないとだめな大人</u></p>	<p>その課題に対して…</p> <p><u>子どもが食事を作って親(大人)が食べる</u> <u>大人の手料理</u> <u>みんなで子どもを守るう</u> <u>大人のありのままの姿</u> <u>大切なことは不易なこととして大切に</u> <u>同じ場で親も育ててもらいたい</u> <u>心の成長は、わらべ歌</u> <u>幼児期にしっかりと家庭の教育</u></p>	<p>そのために大切にしたいこと…</p> <p><u>子どもの目線</u> <u>子どもの中のわが子を見られる</u> <u>親自身の大人としての学び</u> <u>子がいるからあなたは親</u> <u>他の人にカバーしてもらおう家庭教育</u> <u>地域で子どもを育てるという視点</u></p>
--	---	--

<p>そして、子どもたちをとりまく環境づくりのためにも…</p> <p><u>声かけ</u> <u>声をかけていたから、声が返ってくる</u> <u>大切な言葉</u> <u>もらい湯</u> <u>顔見知り</u> <u>地域の講師を探して</u> <u>学校司書の協力</u> <u>子どもをつれてくるのは最近母親だけではない</u> <u>あいさつ</u></p>	<p>これからの時代を考えると…</p> <p><u>ITを活用した情報提供</u> <u>高齢者とのふれあい</u> <u>子どもと一緒に</u> <u>子どもたちから自主的に行動</u></p>	<p>家庭教育を支援し、その教育力を向上させるためには…</p> <p><u>時間がたつにつれてつながり</u> <u>できることから</u></p>
---	--	--

各自が行っている活動や職務上の関係から感じている課題を交流しながら、家庭の教育



力を向上させるために、親の視点、子どもの視点、そして、親子の視点で現状課題意見交換を行いました。特に、家庭を取り巻く教育環境をとらえ直し、整えていく方向で、それぞれの立場から数多くの意見が出されました。

第2回目 「地域の教育力を向上させるために」 10月12日(水)実施

<p>地域にある課題等を考えると…</p> <p><u>子どもを見ていると家庭の教育力を感じる</u> <u>自分の子どもしか見えていない親(大人)</u> <u>子どもを預けて楽だと感じる親</u> <u>世代の違うスタッフの感覚</u> <u>リードする人の大変さ</u> <u>学校、家庭、地域の連携 なかなか一本につながる</u> <u>ことが難しい</u></p>	<p>その課題に対して…</p> <p><u>信頼関係が必要</u> <u>人とのつながりをつくること</u> <u>意識を持っていない人をどうふりむかせるか</u> <u>運動会や学芸会などでないと出てこない親</u> <u>このときに何かできないか</u></p>	<p>そのために大切にしたいこと…</p> <p><u>小さな子を持つ親は情報交換</u> <u>先生のかかわり</u> <u>つながるための何か</u> <u>子どもたちのために何かを</u> <u>地域での地道な活動や継続した活動から、地域の絆</u> <u>地域は人間として学ぶ場</u> <u>その後につなげていくこと</u></p>
---	--	---

<p>そして、子どもたちをとりまく環境づくりのためにも…</p> <p><u>すぐ結果の出るものではない</u> <u>地域が子どもを見ている</u> <u>うるさいおばさん</u> <u>地域では、子どもたちがのびのびできる大人の学び</u> <u>地域の教育力向上の目的は、自らの学びのため</u></p>	<p>これからの時代を考えると…</p> <p><u>参加する者の減少と住民のニーズをとらえる必要</u> <u>仕掛けることも必要な時代</u> <u>地域に気づきや学びの要素が必要</u> <u>学びあう仲間</u></p>	<p>地域の教育力を向上させるためには…</p> <p><u>知り合い関係をつくりあげる大人</u> <u>大人同士のつながり</u> <u>地域の中の学校の役割</u></p>
---	---	---

地域の大人のつながりは、地域の教育力のバロメーターである。親のつながりや大人同士のつながり、また、関係機関のつながりなどが希薄である地域社会の現状を感じながら、いかにして、望ましい関係をつくりあげていくことが大切か。そのために必要なことは何か。思いが熱く語られました。



第3回目 「家庭・地域の教育力を向上させるための具体的方策について」 11月16日(水)実施

先の2回の協議を経て、概ね、家庭教育及び地域教育における現状や課題を踏まえ、今後の具体的な方策(取り組むべき方向)について協議しました。

STEP 1 身近に感じている課題を考える(課題を整理する)

団体やサークル等、個別化して互いの活動が見えないこと
出てこない、参加しない親への対応
物や情報が豊かな時代にあって、大切にしなければならないこと
大人(親・地域・高齢者等)が地域の子どもに無関心



STEP 2 その課題に対する対応策を考える(課題解決の方策を考える) 実行可能な

学校を中心とした地域づくり(学校施設や機能の活用)
青少年の健全育成に必要な情報の提供と啓発
多くの大人たち(世代を超えた)が子どもたちの関わる場の設置や拡充
楽しい中で交流できる取組を(参加しない親や子どもへのアクションにもなる)

STEP 3 その対応策(方策)に対する団体・市町村・道の役割を考える

- (団体) 単位団体・サークル活動の充実とともに、地域における役割(学習成果の活用)をより大きなものにするためにも、目的志向で横の連携(つながり)をつくりあげる。
- (市町村) 住民活動をつなげるきっかけとして、必要課題を踏まえて具体的行動へつながる取組を推進するとともに、行政内部の横の連携をしっかりとつくりあげる。
- (道) 家庭教育を支援するための労働環境等の整備に努める。



家庭教育を支援し、その教育力を向上させるためには、地域の教育力が大きな役割を果たすという方向で意見交換される中、地域の教育力を向上させるためには、様々な取組や活動の中に「楽しいこと」そして「交流できること」が必要であり、その上で、今、地域にある教育力をいかに向上させていくかを協議しました。

地域にある教育力を向上させるためには、現在もある地域で活動する団体やクラブ・サークルなどを、その活動や目的志向でつなぎ合わせていく必要があり、そのつながりが地域の教育力向上の基礎となり、大きな役割を果たすこととなるのではないかと。

その上で、行政としてはそのきっかけを作る役割を果たすとともに、より家庭教育や地域活動を推進するための環境の整備に努めていくことが大切である。

「地域並びに行政内部の横の連携(つながり)から地域の教育力を高めていくとともに、そのネットワークを基盤として家庭教育を支援していくことが大切である」とまとめました。

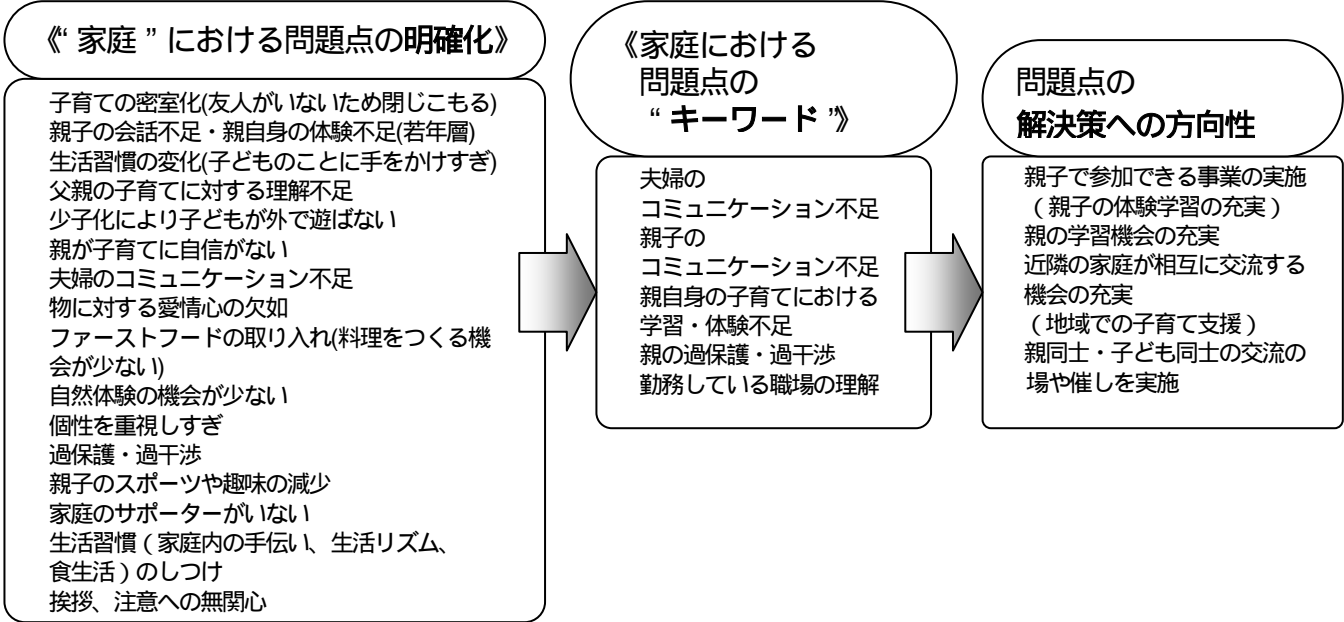
グループ協議の概要 「Bグループ」

【構成メンバー】子育て支援団体、青少年育成団体、市町村行政職員

坂井翔一氏（当別町：NPO青少年活動センター「ゆうゆう24」） 佐々木拓人氏（千歳市教育委員会）
 東 信也氏（石狩市教育委員会） 岩田隆治郎氏（小樽市：塩谷地区「子どものすこやかな成長を願う会」）
 今田奈々子氏（黒松内町教育委員会） 山岡桂司氏（芦別市：芦別山岳会） 運上琢諭氏（滝川市教育委員会）
 赤井圭二氏（沼田町教育委員会）

第1回目実施〔9月1日（木）〕協議のテーマ：「家庭の教育力を向上させるために」

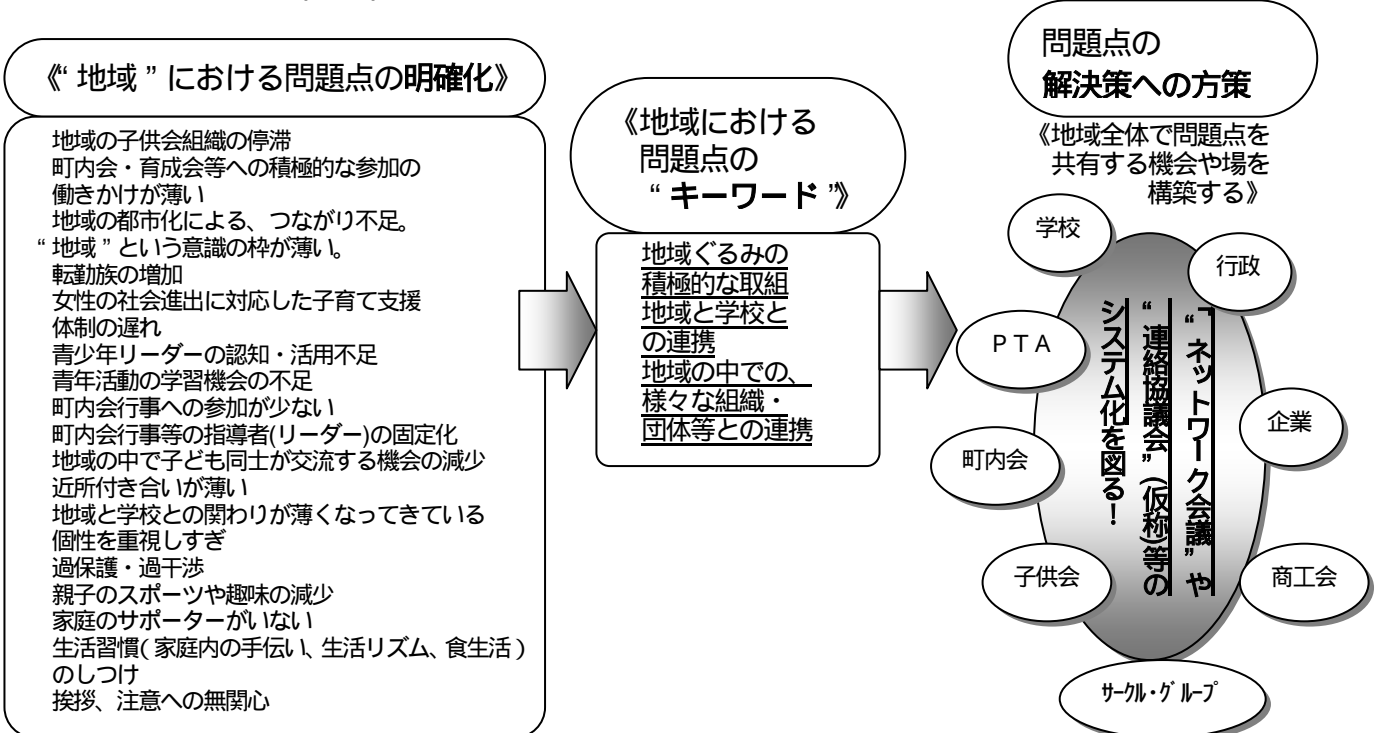
上記のテーマを基に、“家庭”に視点をあて、メンバーそれぞれの立場から家庭における問題点について意見交流し、解決策への方向性を考えた。とりわけ、親子の絆を深められる機会の充実や親自身の学習機会の提供を図ることが大切であるという意見が出された。



第2回目実施〔10月12日（水）〕協議のテーマ：「地域の教育力を向上させるために」

上記のテーマを基に、“地域”に視点をあて、問題点を共有し、解決策への方向性を考えた。

テーマの解決策としては、行政を含み地域に組織している様々な団体・グループの代表者を選出し、地域の課題を共有し行動できるシステム(組織)を構築することが必要であるという意見が出された。



第3回目実施〔11月16日(水)〕協議のテーマ：「家庭・地域の教育力を向上させるための具体的方策について」

先の2回のグループ協議で出された意見を総合し、家庭・地域における教育力を向上させるための方策を以下の3点にまとめた。

方策1

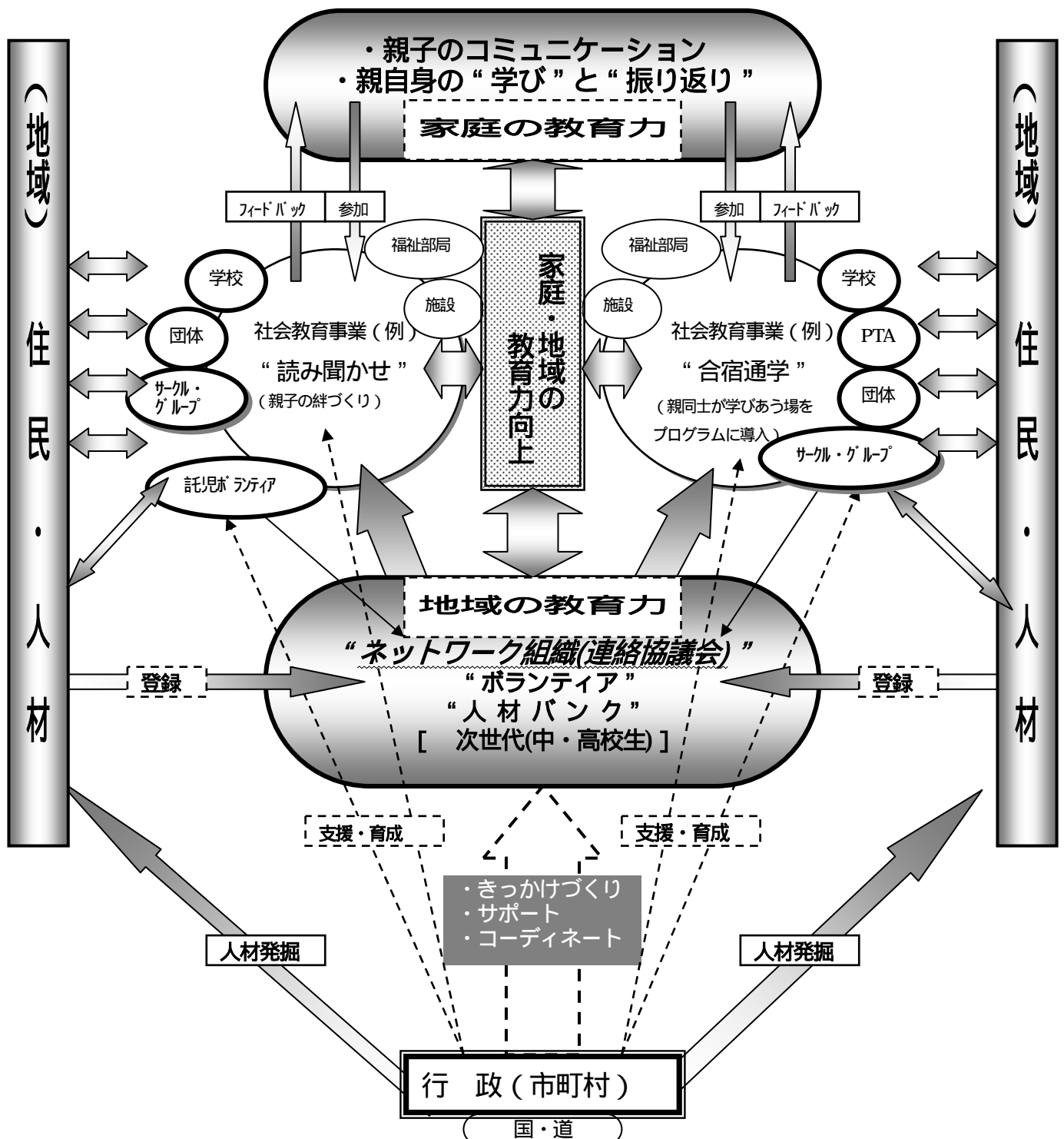
家庭の教育力を向上させるためには、各地域の社会教育事業の中に、親子・子ども同士・親同士の『交流の機会や学習の場』を意図的につくる必要がある。

方策2

地域の教育力を向上させるためには、地域のサークル・団体、PTA等の社会教育関係団体が、地域住民への啓蒙を積極的に行い、組織拡大とともに、人とのネットワークを広げ、つながりを持つような動きが出来るように行政は支援していく必要がある。

方策3

行政は、社会教育関係団体及び学校、各種サークル・グループ、ボランティア・町内会・企業等の代表者で組織する“連絡協議会(仮称)”を立ち上げ、ネットワークを構築し、地域全体で課題点、問題点を共有し、組織をサポートしながら、『行政主導型』から『地域主導型』への流れをつくる必要がある。



グループ協議の概要 「Cグループ」

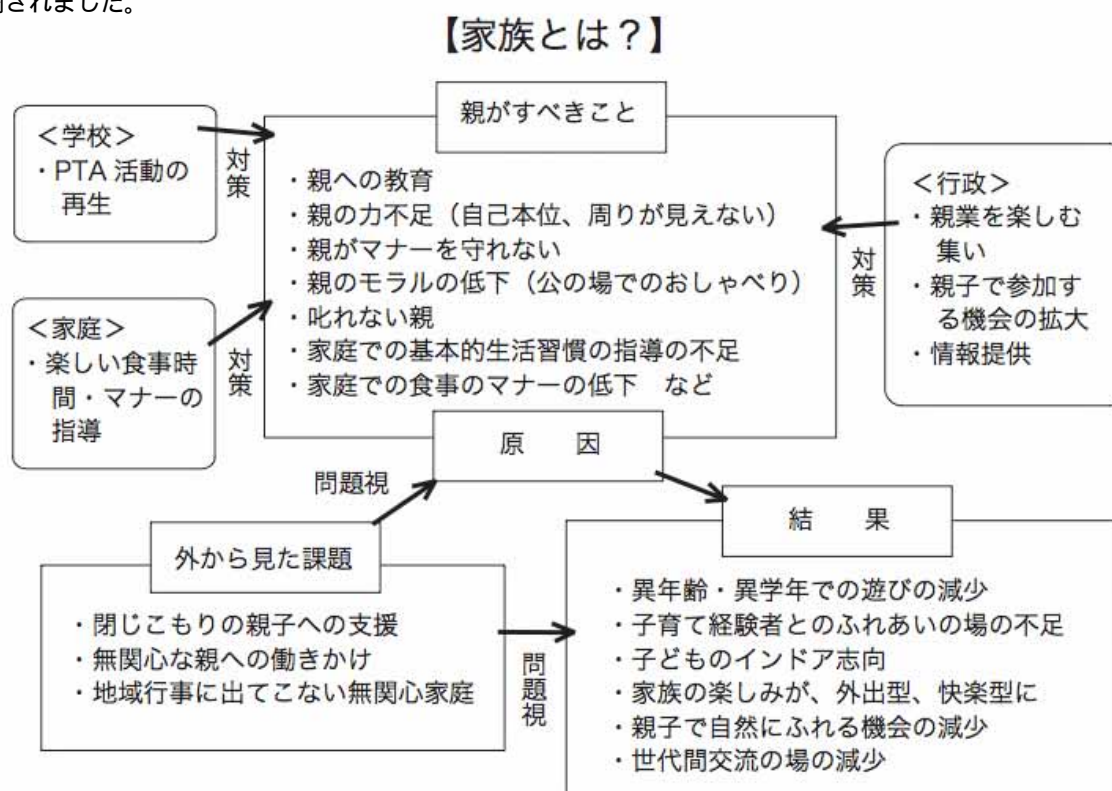
第1回目 「家庭の教育力を向上させるために」 9月1日(木)実施

家庭の教育力が低下しているという観点から、具体的な事例をもとに、どのような場面で家庭の教育力の低下を感じるか、「親がすべきこと」という視点で協議をしました。その中から、親が親として育てていない現状が浮き彫りになり、結果として世代間交流の不足や子どもたちのインドア志向が強まるなど、子どもの成長にとって必ずしもプラスに働かない結果となっていることが確認されました。

家庭の教育力の低下は、家庭内の課題にとどまらず地域の課題として受けとめ、閉じこもりの親子への支援や無関心な親に対しての働きかけを行っていく必要があるとの意見が出されました。

これからは、学校を中心として家庭と地域が連携する中で、PTA活動を活性化させ、少しでも親同士の交流の場を設けること、また、行政としては親子で参加できる事業の実施、適切な情報の提供を行うことが必要であるというまとめがされました。

さらに、家庭内でも子どもたちに楽しい食事の時間の提供やマナーについての指導を行うなど、食育の視点に立った取組の重要性も指摘されました。



第2回目 「地域の教育力を向上させるために」 10月12日(水)実施

第2回目の協議会は、「地域の教育力を向上させるために」というテーマで話し合いがもたれました。

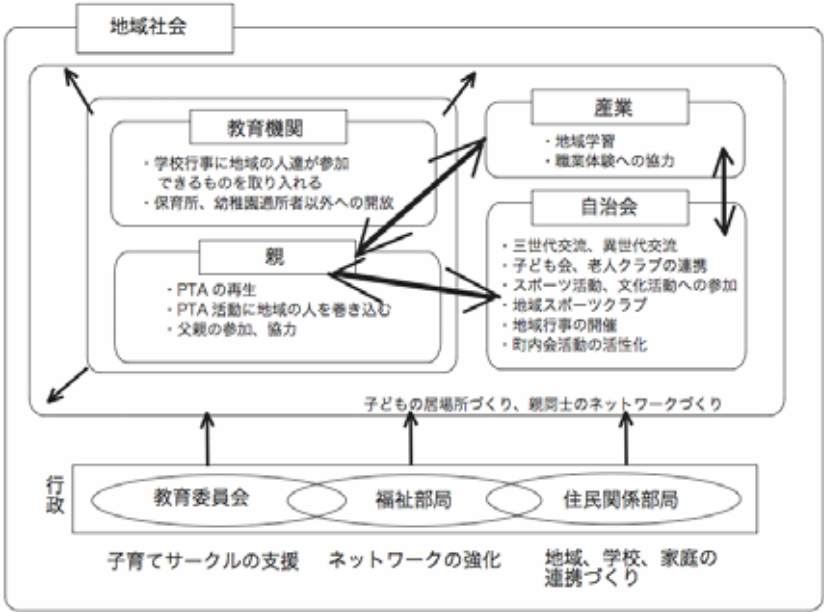
地域に存在するさまざまな機関、組織が有機的に連携し、地域をあげて子どもたちを育てていくという視点に立たなければならないということが確認されました。

例えば、学校、幼稚園等の教育機関は学校行事を地域の人達が参加できるようなスタイルに改善する等の取組を進めることや、自治会等においては異世代交流を活性化させる観点のもと、新しい地域行事を開催すること、また、文化やスポーツの面からも家庭や子どもたちにアプローチする取組(総合型地域スポーツクラブの設置等)を検討する必要があるとの意見が出されました。また、地域産業に関わる民間企業や関係機関も、地域学習の要素を含めた学習機会の提供や、子どもたちの職業体験への協力などを積極的に行う必要があるとの指摘がありました。

行政としては、教育委員会、福祉部局、住民関係部局等がそれぞれの専門性を活かしながら、連携をとりあい、学校、家庭、自治会などに働きかけを行っていく必要性があり、その機能が十分に発揮されることによって、地域における子どもの居場所が確保され、親同士のネットワークもつくられるのではないかとまとめとなりました。

【地域の教育力とは】
 話し合いから

- ・子どもに関心をもって、子どものために汗を流せる大人がいるかどうかというイメージ
- ・次世代を担う子どもを育てる力が地域の教育力だと思う。
- ・子どもたちを育てる活動が、隣近所からまちに広がっていくこと
- ・自分の生活圏の中で、大人、子どもが顔見知りであることが基本だと思う



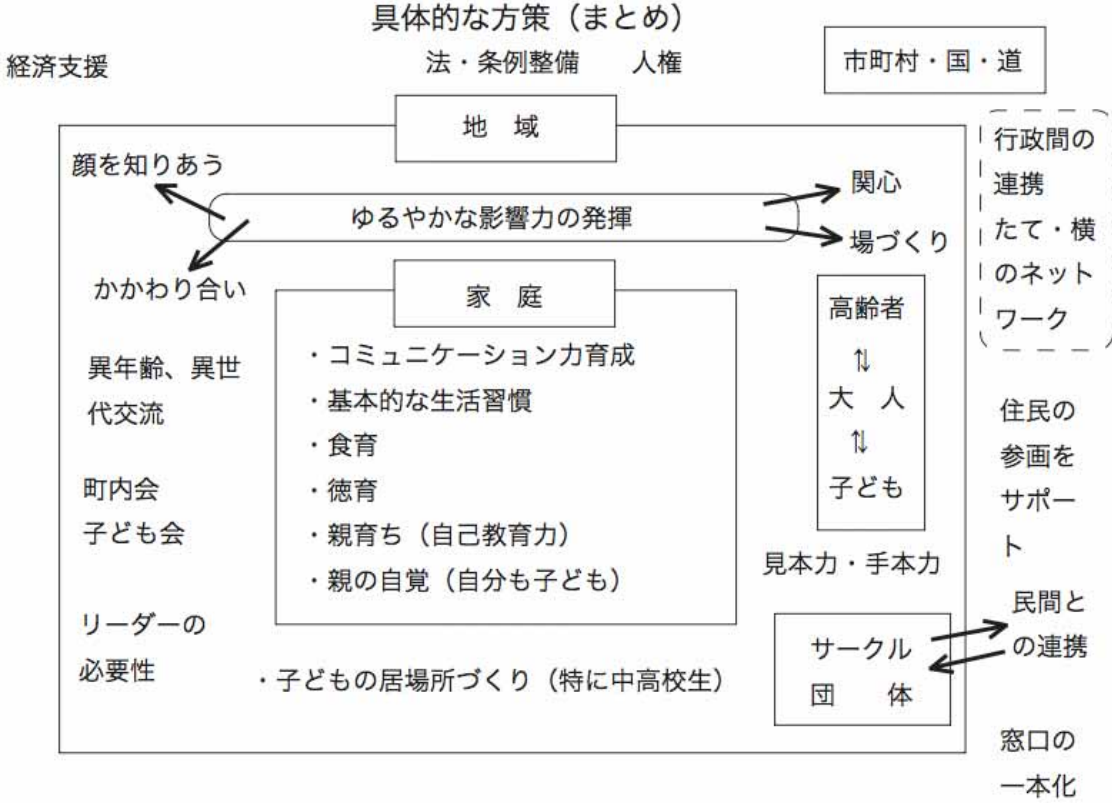
第3回目 「家庭・地域の教育力を向上させるための具体的方策について」 11月16日(水)実施

2回のお話し合いを受けて第3回の協議会では、家庭、地域の教育力の向上を目指すための具体的方策について討議がなされました。

現代の親が抱えるさまざまな課題を踏まえ、まず、親が親としての力をつけ、子どもの育成にあたるのが大切であるとの意見が多く出されました。そして、親の自覚を促すためには、地域の中で、「関心」「場づくり」「顔を知りあう」「かかわり合う」キーワードに、ゆるやかな影響力をもって、人と人、人と組織の関係づくりを進めていく必要性があるという方向が出ました。

また、地域に暮らす大人が子どもたちに対して、よき手本となるような生活を営むことが大切であり、子ども、大人、高齢者が参画する異世代交流の場をつくり、交流を通じてそのことを示していく必要性も指摘されました。

さらにこれからは、地域におけるサークルや団体と民間との連携、行政間のたて・よこのネットワークが重要であり、地域やそこに住む住民をソフト面からも支援していくことがますます必要となるというまとめとなりました。



キーワード；縦と横のつながり・ひろがり

今回の研究協議会では、以下のように「縦と横のつながり・ひろがり」がキーワードとしてあげられました。

Aグループ

地域並びに行政内部の横の連携(つながり)から地域の教育力を高めていくことやそのネットワークを基盤として家庭教育を支援していくことが大切である

Bグループ

地域のサークル・団体、PTA等の社会教育関係団体が、地域住民への啓蒙を積極的に行い、組織拡大とともに、人とのネットワークを広げ、つながりを持つような動きが出来るように行政は支援していく必要がある。

Cグループ

地域に暮らす大人から子どもまでが参画する異世代交流の場づくりが必要、また、地域におけるサークルや団体と民間との連携、行政間のため・よこのネットワークが重要である

本研究協議会では、様々な立場の人たちが集まり、協議することで横のつながり(ネットワーク)を作ることができました。今後は、このようなつながりがブロックや管内レベルにおいて、発展した形に広がることを期待しています。



参 考

平成14年7月に報告された「今後の家庭教育支援の充実についての懇談会報告」の中では、子育てネットワークやサークルの関係者と社会教育行政の関係者との連携による家庭教育支援の強化、行政によるネットワークに対する支援の在り方、ネットワーク関係者と行政との連携の方法などの調査研究について提言している。また、報告では、「今、なぜ行政と子育て支援団体との連携なのか」について「家庭教育支援については、子育てネットワーク、サークル等の主体的な活動を基盤として、その連携の下に共同して取り組んでいくことが不可欠」であると以下のように提言している。

連携にあたっての留意点 ～4つのポイント～

- (1) 親の主体的な「学び」と「育ち」を支援
- (2) 自立した協力関係
- (3) 「個人のつながり」とともに「組織のつながり」へ
- (4) 行政内部の連携強化